



# 高洗浄研磨剤・成分表、安全シート

  
 柳瀬株式会社  
 兵庫県丹波市山南町谷川1385  
 TEL: 0795-77-2151  
 作成日: 2023年8月22日  
 整理番号: MSDS-Z212

## 高洗浄研磨剤 鏡面ライム (YN5-C)

危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	可燃性固体	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口) 発がん性 特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露) 特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	区分外 区分3 (気道刺激性) 区分1 (吸入:肺)
環境に対する有害性	水生環境急性有害性 水生環境慢性有害性 オゾン層への有害性	分類できない 分類できない 分類できない
ラベル要素  注意喚起語 危険有害性情報	  危険 呼吸器への刺激のおそれ 長期にわたる又は反復暴露による臓器(肺:吸入)の障害 上記に記載がない有毒性は、分類対象外か分類できない	
注意書き	<b>【安全対策】</b> この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取り扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 発塵する場合は、防塵マスク、保護手袋、保護眼鏡、保護衣を着用すること。 <b>【応急措置】</b> 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。 <b>【保管】</b> 容器を密閉し、高温を避け、室内の換気の良い所に保管すること。 <b>【廃棄】</b> 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。洗浄液は無害化して廃棄する。	
重要な徴候	情報なし	
想定される 非常事態の概要	情報なし	

物質の特定	単一製品・混合物の区分 : 混合物		
	成分	CAS-No.	濃度 (%)
	酸化アルミニウム	1344-28-1	81 %
	高級脂肪酸	57-10-3	8 %
	中性油脂	8001-78-3	6 %
	植物樹脂	8050-09-7	2 %
	界面活性剤(ノニオン)	9005-64-5	3 %
応急措置	<p>吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p>皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。</p> <p>眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>飲み込んだ場合 : 水又は食塩水を飲ませ嘔吐させ、直ちに医師に連絡すること。</p> <p>応急措置をする者の保護: 保護衣、保護具を着用すること</p>		
火災時の措置	<p>消火剤 : 初期火災には粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火薬剤、乾燥砂等を用いる。大規模な火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。</p> <p>消火を行う者の保護: 適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用すること。</p>		
漏出時の措置	<p>人体に対する注意事項: 発塵する場合は、防塵マスクを着用すること。 保護具及び緊急時措置: 関係者以外は立ち入らないこと。 露出時の処理を行う場合はゴム手袋、保護眼鏡、保護衣を着用すること。</p> <p>環境に対する注意事項: 収集物は産業廃棄物として処理すること。</p> <p>回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材: 漏洩物を空容器に回収する。</p>		

<p>取扱い及び保管上の注意</p>	<p>取扱い          技術的対策：「暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。          局所排気・全体換気：「暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策（局所排気措置、全体換気）を行う。          注意事項：発塵する場合は防塵マスクを着用する。</p> <p>保管          技術的対策：取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。          混触禁止物質：「安定性及び反応性」を参照。          保管条件：高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。          容器包装材料：破損しないものに入れる。</p>
<p>暴露防止及び保護措置</p>	<p>管理濃度：未設定          許容濃度          日本産業衛生学会：吸入性粉塵 0.5mg/m<sup>2</sup>(第1種粉塵)          ACGIH：TLV-TWA(時間加重平均値)金属アルミニウムとその化合物 1mg/m<sup>3</sup></p> <p>設備対策：粉じんの吸入を避けるために排気用の換気を行うこと。</p> <p>保護具          呼吸器の保護具：適切な呼吸器保護具（防塵マスク等）を着用すること。          手の保護具：適切な保護手袋（皮手袋等）を着用すること。          眼の保護具：保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用すること。          皮膚及び身体の保護具：保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。</p>
<p>物理／化学的性質</p>	<p>外観等：台形個体、淡い緑色</p> <p>臭い：油脂臭          沸点、初留点及び沸騰範囲：データなし          融点・凝固点：51～68℃          引火点：データなし          爆発範囲：データなし          蒸気圧：データなし          蒸気密度：データなし          溶解度：水に可溶、トルエンに可溶          比重（密度）：2.8g/ml          蒸気密度：データなし          蒸気濃度：データなし          pH：データなし          n-オクタノール/水分配係数：データなし          自然発火温度：データなし          分解温度：データなし</p>
<p>安定性及び反応性</p>	<p>安定性、反応性：大気中で安定である。          危険有害反応可能性：自己反応性なし。          避けるべき物質：情報なし。          混触危険物質：情報なし。          危険有害な分解生成物：情報なし。</p>

有害性情報	<p>急性毒性 : ラット LD<sub>50</sub>&gt;5000mg/kg (経口)  皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 情報なし  眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 情報なし  呼吸器感作性 : 情報なし  皮膚感作性 : 情報なし  生殖細胞変異原性 : エームス試験で陰性。  発がん性 : ACGIH によるヒトの発がんリスクの総合評価は A4。  微細粒状あるいは繊維状の酸化アルミニウムをラットの胸膜内に移植  注入すると腫瘍の発生が見られた。(引用 1, 2)  NTP(米国国家毒性プログラム)の基づく試験では発がん性は認められ  なかった。(引用 3)  生殖毒性 : データなし  特定標的臓器毒性 (単回暴露) : 高濃度の粉塵を吸入すると、目や上気道を  刺激することがあるとの報告がある。(引用  4)  特定標的臓器毒性 (反復暴露) : 酸化アルミニウムまたは線維症に関する情  報で、職業暴露で肺に線維症が認められた  との情報もあるが、詳細な記載はない。(引  用 5)  吸引性呼吸器有害性 : 情報なし</p>
環境影響情報	<p>生態毒性 : 情報なし  残留性・分解性 : 情報なし  生体蓄積性 : 情報なし  土壤中の移動性 : 情報なし  オゾン層への有害性 : 情報なし</p>
廃棄上の注意	<p>残余廃棄物 : 産業廃棄物として処理する。</p>
輸送上の注意	<p>国際規制  国連分類 : 該当しない  国連番号 : 該当しない  国連輸送品名 : 該当しない  容器等級 : 該当しない  海洋汚染物質 : 該当しない  国内規制 : 該当しない</p> <p>輸送に関連する特別の安全対策 : 包材を破損させないように注意すること。  応急措置指針番号 : 該当しない</p>
適用法令	<p>労働安全衛生法 : 法第 57 条の 2 第 1 項、通知対象物、政令番号第 189 号  じん肺法 : 施行規則第 2 条別表粉塵作業(アルミナ、粉塵)  消防法 : 可燃性固体物</p>
その他	<p>記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しております  が、含有量、物理的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすもの  ではありません。  また、注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合  には用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。</p>
引用文献	<p>1)Stanton,MF.et al.,J.Nati.CncerInst.,67:965-975(1981)  2)Wagner,J.C.et al.,Br.J.Cancer.28,173-185(1973)  3)Documentation of the Threshold Limit Values And Biological  Exposure indices,6th et ,1991,48-49  4)ICSC 0351-ALMINIUM OXIDE ICSC(2000)  5) 8.2.1 Respiratory tract effect 「EHC(1999)」</p>